

石川の全小学生750人 いわき久之浜に植栽へ



石川町の児童が育てるコナラの
ドングリを管理する仲田社長

石川町の全小学生約七百五十人が東日本大震災からの復興を願ってドングリを育て、来
年秋以降に児童代表がいわき市久之浜地区の
防災緑地に苗木を植栽する。震災以降、同町
中谷地区と久之浜の住民が交流の絆を育んで
きたことが縁で、久之浜からドングリが届い
た。久之浜の子どもたちも同じドングリを育
てている。震災の記憶を残す防災教育を兼ね
ており、学校関係者は「命の重さや絆を育む
大切さを感じてほしい」と願っている。

復興へドングリの絆

石川町の児童が育てるのはコナラのドングリ。昨年秋に久之浜の住民が集め、二月下旬に町に寄せた。町内の仲田種苗園の仲田茂司社長(左)が管理しており、四月以降に町内の小学校八校に配る。託されたドングリは約三百個のため、同社がい

一方、久之浜では久之浜一小の六年生二十

久之浜一小の松本光司校長(左)は「未来のま

成二十一年に始まった交流は震災を機に

るのはコナラのドングリ。昨年秋に久之浜の住民が集め、二月下旬に町に寄せた。町内の仲田種苗園の仲田茂司社長(左)が管理しており、四月以降に町内の小学校八校に配る。託されたドングリは約三百個のため、同社がい

一方、久之浜では久之浜一小の六年生二十の津波や避難の状況を話してもらうなど、ドングリを育てながら防災について学ぶ。田口

校長(左)は「未来のまちづくりに児童が積極的に関わることができ

た交流は震災を機により密接になった。木村会長は「石川の子どもが大きく変わった時、自分たちが植えた苗が育ったのを見れば交流が続いていく」と話す。

深まる海と山の交流

「海から離れた地域に住む児童の津波への意識を高めることができ

石川町中谷地区と交流を進めている、いわき市の久之浜・大久地

域づくり協議会の木村芳秀会長(右)は、子どもたちが海と山の絆を紡いでくれることを期

石川と久之浜の交流を知り、ドングリの提供を仲介した県土木部の長谷川潔参事(右)は「互いの交流がより深まればうれし

石川町民は震災の直「」と語る。

※防災緑地 津波から市街地を守るため県が10カ所を整備している。農地を守る防災林と違い、住民憩いの場となる地域復興の機能 景観を整える役割も担う。久之浜地区の防災緑地は11.2畝の予定。海岸に近い場所には潮風に強いクロマツなど、内陸部には広葉樹を植える。いわき市の薄磯、豊間両地区の防災緑地には、神奈川県藤沢市の子どもたちが育てる苗木を植える予定で、県は他の防災緑地でも同様の植栽事業を検討している。